



令和5年度実施計画

令和5年1月31日

浜松科学館指定管理者
乃村工藝社・SBSプロモーション共同事業体

目次

1. 事業の基本方針	
(1) 管理運営の方針	2
(2) 使命・目標	3
2. 科学館事業計画	
(1) 常設展の運用	4
(2) 科学学習情報システムの運用	5
(3) 特別展及び企画展	5
(4) 参加型学習	5
(5) プラネタリウム	6
(6) 夜の科学館	9
(7) 学校等との連携、協力	9
(8) 関係機関等との連携、協力	11
(9) ボランティア活動支援	12
(10) 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション	12
(11) パブリックリレーションズ	13
(12) 利用者調査とその活用	13
(13) 常設展示更新事業	14
3. 経営管理計画	
(1) 開館日及び開館時間	16
(2) 利用料金	16
(3) 年間目標	17
(4) 管理運営体制	17
(5) 受付案内	19
(6) 施設貸出	20
(7) 施設維持管理	20
(8) 安全管理	23
(9) 収支計画	25
4. 自主事業計画	
(1) 必須の自主事業	26
(2) 任意の自主事業	27

1 事業の基本方針

(1) 管理運営の方針

浜松科学館は、昭和 61 年に開館し、37 年の歴史がある施設です。この 4 年間で、常設展の全面更新や、プラネタリウムの機器更新等の施設整備が行われましたが、運営面でも第 2 次中期計画に基づいて変革に取り組んでいます。開館当初は青少年の育成を目指していましたが、科学館を取り巻く社会状況や時代の変化に対応して、多様な学びのかたちを取り入れながら、体験や交流を重視する運営方針への転換を進めてきました。

浜松市総合計画に示されている「浜松市未来ビジョン—市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」で浜松科学館は、文化・生涯学習分野の拠点の 1 つとして位置づけられており、創造都市政策推進の一翼を担っています。浜松科学館の価値をさらに高めていくために、職員自らが戦略計画として使命や目標を定め、評価指標に基づく PDCA サイクルを機能させ、検証や見直しを行います。本計画書は、第 2 次中期計画に基づき、令和 5 年度の事業の体系をまとめた実施計画（事業計画）となります。

◎ 浜松科学館の計画・評価の体系



(2) 使命・目標

『浜松科学館 第2次中期計画（3か年／2022年度～2024年度）』で示した指定管理者として目指す10年間の目的（使命）と3か年の事業目標は次の通りです。

使命（ミッション）

浜松科学館は、科学を入り口とした多様な文化交流を通して人々をつなぎ、地域への誇りと愛着をもとに、創造都市を牽引する科学館となることを目指します。

さらに、誰もが科学を楽しみ、安心して学ぶことができ、ひとりひとりの好奇心を育む場として地域に開かれた科学館となります。

事業目標

1 創発的な学びの場を構築

浜松科学館は、多様な利用者それぞれに向けた科学教育のコンテンツを自ら作り上げ、コミュニケーションを重視した創発的な学びの場を構築します。

2 地域に開かれ、市民に愛される科学館づくり

浜松科学館は、公共施設として利用者だけではなく地域全体に開かれた場をつくり、職員が地域と積極的に関わりをもち、市民に愛される科学館となります。

3 協働による新たな視点の提供と地域固有の価値向上

地域固有の価値を高めるために、さまざまなパートナーと協働することで浜松科学館ならではの新たな視点を提供していきます。

4 持続可能性の向上を目指した適正なマネジメント

浜松科学館は、施設の持続可能性を向上させるため、設備やコンテンツ、人的資源を適正にマネジメントし、独立性の高い経営を行います。

令和5年度は指定管理業務の5年度目にあたり、指定管理期間の中間地点となります。この間、展示全面リニューアル、プラネタリウム機器更新等があった一方、パンデミックによる臨時休館や利用制限、集客型プログラムの縮小などさまざまな状況を経験する中で、改めて浜松科学館を管理運営することの意義や責務の重さを再認識してきたところです。私たち指定管理者（乃村工芸社・SBSプロモーション共同事業体）は、さまざまな市民の期待や要望にお応えし、科学館ならではの価値に基づく歓びと感動を提供できるよう、学習施設としてのサービスの更なる向上に挑戦してまいります。

2 科学館事業計画

(1) 常設展の運用

常設展を活用したさまざまな体験を通して、来館者が科学を楽しみ、もっと知りたいという探究心をもてるような運営を行います。スタッフが来館者の視点に立ち、新たな気づきや発見を得られる学びの場をつくっていきます。

① 展示ストーリーブック

常設展の背景にある地域の特性（風土や産業史等）と、展示アイテムとの繋がりを、1つのストーリーとして解説しています。冊子及びウェブサイトからのダウンロードにより利用者に提供し、必要に応じて年度ごとに内容を更新していきます。

② コミュニケーションツール

子供と保護者が一緒に展示を体験するためのツールを提供します。ワークブックを用いて、展示の適切な使い方を誘導しつつ、同伴者とのコミュニケーションを促し、気づきや疑問を引き出すことを狙うものです。昨年度好評だったワークブック「さがしてためしてみらいーら」の第2弾を中2階ゆめたまごにて販売します。

③ 団体利用向けワークシート

団体で来館する児童生徒を対象としたワークシートを運用しています。科学館のウェブサイトからダウンロード可能です。利用者の声を聴きながら、新たなワークシートの作成、内容の充実を図ります。

④ 展示運用マニュアル

展示運用マニュアルによって科学館スタッフおよびボランティアスタッフの解説の質を向上させます。展示アイテムの効果的な運用方法を適宜更新し、来館者が気づきや発見を得られるよう工夫します。



(2) 科学学習情報システムの運用

科学館内での体験の質を高めるとともに、各個人の体験の記録を残すことで発展的な学びにつなげます。端末を所有していない来館者や学校等の団体に、タブレット端末の貸し出しも行います。

◆ デジタルデバイスの活用による展示空間での学びの拡張

スマートフォンアプリを使用することで、展示に関連した科学的な事象についてより発展的な情報を得ることができます。また、展示アイテムで作成した写真や音声データを持ち帰る機能をもたせ、振り返り学習を促します。科学に関連したクイズにチャレンジできるキオスク端末（ベースステーション）を展示室の5か所に設置します。



◆ 人工知能を用いた自動会話プログラム「コンパス君」

チャットボット（人工知能を用いた自動会話プログラム）「コンパス君」を運用します。「コンパス君」は、来館者の質問に対して答えを与えるだけでなく、疑問を引き出したり、次の学習行動（別の展示を見る、調べる等）を促したりす

る役割を担います。来館者の実際の発問に応じた返答を適宜組み込みます。

◆ 体験履歴の蓄積と、体験ポイントの付与

アプリあるいは IC カード（みらいーらカード）を用いると体験ポイントが付与されます。利用者の再来館を促すほか、獲得したポイント数に応じて、オリジナルグッズや特別体験の機会を提供する特典を設けます。科学館のウェブサイト上からログインできる会員ページでは、館内または帰宅後に、貯めたポイントの照会や、体験履歴の確認などができるようにします。

（3）特別展及び企画展

年間を通じて集客を平準化させ、来館者の体験の質を高めることを目指し、年 4 回の特別展及び企画展を行います。コンテンツは科学館スタッフが内製することを基本とし、館の常設展や資料等の充実にも繋がります。さまざまな体験によって科学を楽しむことができるようにワークショップ等を組み合わせ、感染対策を適正に行いつつ実施します。

◆ 令和 5 年度のスケジュール

夏季、春季等の学校休業期間にあわせて、以下のスケジュールで予定しています。

名称	開催時期	実施内容
夏の特別展「身近な光で実験（仮）」	7 月中旬～8 月末	「日用品」をキーワードに、身の回りの日用品が光の性質を利用していることを様々な実験をとおして体感的に理解します。
秋の企画展「科学の学園祭 2023」	10 月上旬～10 月下旬	浜松市および近隣の学生による科学活動の発表の場を設け、来場者と学生、また学生同士のサイエンスを介した交流の場とします。
冬の企画展「みんなで熱中！ものづくり 2023」	12 月中旬～1 月上旬	ものづくりのテーマを「建築、都市づくり」とし、建築についての楽しさに触れる機会を提供します。 (共催：静岡文化芸術大学)
春の特別展「こんな浜松見たことない！浜松マイクロ散歩（仮）」	3 月下旬～	電子顕微鏡で撮影した浜松の名産物の写真展示、名産物の専門家への取材をとおして、新たな浜松の魅力を紹介する。

（4）参加型学習

スタッフが内製化した参加型学習のプログラムを毎日開催します。感染対策を十分に考慮しつつ、内容の難易度や主なターゲットとなる年代に応じて、入門編、発展編①、発展編②の 3 つの区分を設け、幼児からシニアまで幅広い世代が参加できる学びの機会を提供します。

・入門編

来館者が科学に親しみ、足を運ぶ動機づけとなるよう、「いつ訪れても」「予約なしで」「館内のいろいろな場所で」という方針で実施する、参加型学習の入門編です。また、子供と保護者に一緒に参加してもらうなかで、家でできる実験などを紹介し、家族で科学を話題にするきっかけをつくります。

◆ アクティブ展示解説

「自然」「音」「光」「力」「宇宙」の各ゾーンの特定の展示アイテムで、スタッフが特別な解説を行います。参加人数を調整し、距離を保つなど、感染対策に留意して実施します。



◆ サイエンスショー

みらいーらステージでサイエンスショーを実施します。予測したり考えたりするプロセスを重視したプログラムとします。感染対策のため時間を短縮し、1日に5回実施を継続します。

◆ ミニワークショップ

観察、実験、工作、プログラミング体験等のプログラムを実施します。感染対策のため、短時間で距離を保ちつつ実施し、安全に参加できるようにします。

・発展編①

手を動かして考えることを重視し、観察や実験、工作などのプログラムを展開します。自ら工夫する要素を入れ込んだり、作ったものを持ち帰ることができたりと、サイエンスショーや展示学習とは異なる学びの機会を提供します。

◆ サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム、展示フロアでのプログラム

内容の主目的に応じて、15分で科学実験（実験・工作）、15分で自然観察（観察）、15分で展示実験（展示アイテムを用いた実験）とカテゴリを分けて実施します。感染対策のため、体験時間は15分間を目安とします。

・発展編②

小学校高学年の児童から大人を対象とした発展的な内容のプログラムを実施します。プログラムは30分～半日程度を想定し、参加者の学びの充実度合いを高めます。感染対策のため、屋外での活動を積極的に実施します。また、屋内の場合は聴講形式の催しとします。

◆ 自然観察会

科学館周辺や浜松市内で、植物、鳥類、昆虫類などの生物を対象に観察会を実施し、生物学、生態学の理解を深めるとともに、浜松の自然を体感する機会をつくれます。

◆ サイエンスカフェ

「トークオブワnder ～知って楽しい科学のお話～」と題し、カフェ＆ライブラリーにおいて、気軽に楽しめる科学に関する話題を科学館スタッフがお話しします。

（5）プラネタリウム

機器更新されたプラネタリウムを活用して、光学式プラネタリウムとデジタル式プラネタリウムの両方の長を生かした運用を行います。また、当館の特徴であるスタッフによる番組映像の内製化と、当日の夜の星空の生解説を継続します。一方、プラネタリウムのファンを作り繰返し利用を促進するため、生解説プラネタリウムのテーマの更新頻度を約3ヶ月から約2ヶ月に短縮します。これに加え、例年、好評をいただいている「七夕」「クリスマス」のテーマも継続します。また、引き続き、観覧者数調整等を行って、ドーム及びホワイエ内での感染対策を図ります。

① 投映スケジュール

平日は一般向けの投映を午後 2 回行い、その他は学校を中心とする事前予約団体向けの投映を最大 3 回行います。土曜・日曜・祝日と学校休業期間は幼児連れの家族向けの「キッズプラネタリウム」と一般向けの「生解説プラネタリウム」を合わせて 1 日 3 回投映します。ドームスクリーンを活かした「大型映像」を平日は 1 回、土曜・日曜・休日と学校休業期間は 2 回上映します。青少年・成人層の利用を促進するため、毎月第 3 金曜に特別投映を行います。

回	平日	土曜日・日曜日・祝日・学校休業期
1	10:00～10:45 事前予約団体	10:30～11:10 キッズプラネタリウム
2	11:30～12:15 事前予約団体	11:40～12:35 生解説プラネタリウム
3	13:00～13:45 事前予約団体	13:15～13:55 大型映像 番組①
4	14:30～15:25 生解説プラネタリウム	14:30～15:25 生解説プラネタリウム
5	15:50～16:30 大型映像 番組②	15:50～16:30 大型映像 番組②
6	未定 特別投映 ※毎月第 2 金曜	

② 投映番組

◆ 生解説プラネタリウム

当日の星空解説と、テーマ解説の 2 部構成で投映します。テーマ解説では天文や宇宙に関する話題をスタッフが内製する映像を交えて紹介します。

時期（日程は変更になる場合があります）	内容
2023 年 3 月 1 日(水)～4 月 30 日(日)	「日本の反対側の星空」 南半球から見られる星空を紹介。
5 月 1 日（月）～6 月 23 日（金）	「知ってる？小惑星」 あまり知られていない「小惑星」という天体について紹介
6 月 24 日(土)～7 月 7 日(金)	「七夕まつり」（※タイトル変更） 織姫星と彦星の見つけ方や七夕伝説などを紹介。昨年度同様（再投映）
7 月 8 日(土)～10 月 1 日（日）	「未定」
10 月 3 日(火)～11 月 30 日（木）	「未定」
12 月 1 日（金）～12 月 25 日（月）	「星降るクリスマス」 “クリスマスの星”などについて解説。
12 月 26 日（火）～2024 年 2 月 29 日（木）	「未定」
3 月 1 日（金）～4 月 30 日（火）	「未定」

◆ 大型映像

ドームスクリーンに大画面の映像作品を上映します。レーザー光源となって発色が良くなり明るさも増したプロジェクターで、より一層迫力ある映像体験が可能となるため、その機器を活かせる番組選定を行います。

時期（日程は変更になる場合があります）	内容
4月1日(土)～7月14日(金)	番組①「月をめざしてーロケットを作った研究者たちー」（約27分） ロケット開発のパイオニアたちの物語をはじめ、人工衛星やロケットが飛ぶ仕組みをわかりやすく紹介。
	番組②「水の惑星」（上映権保有期間 2023年7月15日まで） 私たちの地球が水の惑星であることを改めて感じられる作品。 KAGAYA スタジオ最新作。
7月15日(土) ～8月31日(木)	番組①「海竜王 モササウルス」（約25分） 恐竜とは異なる進化を遂げた最強の海竜モササウルス。 最新の研究で明らかになった最強海竜の3千万年に渡る壮大なドラマ。
	番組②「月をめざしてーロケットを作った研究者たちー」（約27分） ロケット開発のパイオニアたちの物語をはじめ、人工衛星やロケットが飛ぶ仕組みをわかりやすく紹介。
9月1日(金) ～2024年3月31日(日)	番組①「海竜王 モササウルス」（約25分） 恐竜とは異なる進化を遂げた最強の海竜モササウルス。 最新の研究で明らかになった最強海竜の3千万年に渡る壮大なドラマ。
	番組②「銀河鉄道の夜」（約38分） 星を愛した作家・宮沢賢治の傑作「銀河鉄道の夜」を、映像クリエイターKAGAYA氏が鮮明に再現した作品。

◆ キッズプラネタリウム

小学校低学年以下の児童が家族と楽しめる星空生解説番組を、通常より短く、やさしい内容で放映します。
後半には新しい宇宙旅行ショートムービーも上映します。

時期	内容
3月21日(火)～6月23日(金)	「さがそう！さんかくのかたち」 今夜の星空解説とともに冬の大三角形と春の大三角形を探します。
6月24日(土)～7月7日(金)	「みつけよう！たなばたのほし」 今夜の星空解説とともに「おりひめぼし」と「ひこぼし」のを見つけ方を紹介します。
7月8日(土)～8月31日(木)	「かぞえよう！ペルセウスざりゅうせいぐん」 今夜の星空解説とともに8月13日に極大を迎えるペルセウス座流星群について紹介します。
9月1日(金) ～10月1日(日)	「ながめよう！おつきみのはなし」 今夜の星空解説とともに「中秋の名月」について紹介します。
10月3日(火) ～11月30日(木)	「しましま！もくせい」 今夜の星空解説とともに見ごろとなる木星について紹介します。
12月1日(金) ～12月25日(月)	「ワクワク！クリスマスのほし」 今夜の星空解説とともに「クリスマスの星」について紹介します。
12月26日(火) ～2024年3月20日(水)	「すぐにみつかる！オリオンざ」 今夜の星空解説とともにオリオン座のを見つけ方を紹介します。

◆ 学習利用団体を対象とした投映

対象年齢等に応じた、きめ細やかなプログラムを用意します。

種類	内容
スタンダード（ショート）	「こんやのおほしさま（浜松の星空解説）」 幼稚園・保育園向けに、通常より短く、やさしい内容の星空生解説番組を投映
スタンダード（フル）	「浜松の星空解説+誕生日星座」（内容の見直しを検討中） どなたでも楽しみながら宇宙への興味をかきたてられるスタンダードプログラム
理科学習 （小学4年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 4年生の理科の授業カリキュラム※に合わせた理科学習投映 （※夏と冬の星座、星の動き、星の色の違い、月の動き、月の形）
理科学習 （小学6年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 6年生の理科の授業カリキュラムに合わせた理科学習投映（月の表面、月の満ち欠け）
理科学習 （中学生以上向け）	「浜松の星空解説+番組『太陽～私たちの母なる星～』」 星空解説とESO(ヨーロッパ南天天文台)制作の太陽に関するオート番組を組み合わせた学習要素が強いプログラム

③ プラネタリウムの利用促進

◆ プラネタリウムドームを活用したイベント等の開催

時期	内容
通年（毎月第2金曜）	夜の科学館 特別投映「大人向けプラネタリウム」（仮称） （詳細未定）

（6）夜の科学館

大人を対象とした事業を行います。月1回、第2金曜日の夜に、大人向けのプラネタリウムやサイエンスショー、特別コンテンツなどを提供します。月ごとに食、歴史、テクノロジーなどのテーマを設定し、テーマに合わせた内容で事業を行います。カフェもオープンし、週末の夜に科学館で過ごしてもらえるような企画とします。

（7）学校等との連携、協力

学校等の団体が利用しやすい環境の確保に努め、科学館の特徴を活かした効果的な学習の機会を提供します。浜松市教育研究会理科研究部等との協力関係を維持し、共通の目的をもって協働を進めます。

① 学校等の団体利用を推進

◆ 団体向け学習プログラムの実施と利用の働きかけ

- ・ 展示見学やサイエンスショー・理科学習投映等のプログラムを、団体側が選択できるようにします。
- ・ 「学習利用ガイドブック」を各市の教育委員会を通じて学校に案内し、ウェブサイトでも公開します。

- ・ 校長会等に出向き、科学館を利用した学習について説明を行います。

◆ 学習利用にあたっての教員との連携・協力

- ・ 科学館を利用する教員の相談や下見に対応し、学習効果の高い授業の実施を支援します
- ・ 学習のための教材の貸出を行います。

② 出張プログラムの実施

◆ 学校や公共施設を対象とした出張プログラムの実施

種類	内容
サイエンスショー	体育館や理科室などでサイエンスショーを行います。屋外で行うこともできます。
野外観察	学校の校庭や近隣の公園で昆虫を採集します。採集した昆虫を観察して、体のつくりを学びます。

③ 課外活動や自由研究に関する作品展、相談等の実施

小学校や中学校、高校の児童・生徒の課外活動や自由研究等について、科学館ならではのリソースを用いて支援していきます。来館者としてではない形で、中学生や高校生との接点を増やし、科学館の存在価値を高めます。

◆ 科学の学園祭

生徒・学生たちが日々の部活動、課外活動等で取り組んでいることの成果を、ワークショップ、サイエンスショー、ポスター等のかたちで表現してもらい、来館者との間で、生徒・学生同士での交流が生まれる場を提供します。科学の祭典「おや！なぜ？横丁」に代わる催しとして定着を図ります。

◆ 理科の自由研究「みらいーら自由に研究ラボ」

電子顕微鏡や生物顕微鏡等、科学館の設備の貸し出しや科学館スタッフとの対話をとおして、浜松市内の小・中学生の理科の自由研究を支援します。科学の学園祭にて研究成果の発表を行い、優秀作品を表彰します。櫻場賞授与式・理科研究発表会に代わる催しとして定着を図ります。

◆ 浜松市小・中学生理科研究作品展

浜松市教育研究会理科研究部と共催し、理科自由研究の優秀作品を展示します。

◆ 理科自由研究等の相談

夏休み期間中に、児童・生徒の自由研究や発明くふう作品に関する相談を随時受け付けます。

④ 学校等における研修、実習への対応

- ・ 浜松市及び近隣市町の小・中学校の依頼に応じ、新規採用教職員及び在職 10 年程度の教職員を対象とした社会教育施設研修を実施します。
- ・ 中学生の職場体験を受け入れ、科学館の社会的役割や仕事の意義を生徒に伝えます。
- ・ 大学の博物館・社会教育施設実習を受け入れ、実習生向けのプログラムを実施します。
- ・ 大学の講義やゼミ等を支援します。
- ・ 企業や団体が実施する人材育成研修にも対応します。

(8) 関係機関等との連携、協力

① 市内の関係機関等との連携、協力

◆ 浜松市小・中学生発明くふうコンテスト

浜松経済クラブとの共催で、浜松市内の小・中学生を対象とした発明くふうコンテストを行い、優秀作品を顕彰します。展示では、自身の作品を紹介する動画も公開します。

◆ トップガン教育システム協議会、浜松ユネスコ協会学校委員会との連携

市内の教育関連団体が実施する催しに会場を提供します。

主催団体	内容
トップガン教育システム協議会	・第8回小・中学生理科研究プレゼンテーションコンテスト 10月29日(日) ・第11回 MATH やらまいか決勝大会 12月9日(土) ※予定
浜松ユネスコ協会学校委員会	・ユネスコ科学教室 ※未定

◆ 浜松市天文台との連携

毎月の星空案内の共同発行を継続するほか、「ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展」に協力します。

◆ 静岡大学・静岡県立農林環境専門職大学との連携

静岡大学との連携で、年に2回サイエンスカフェを実施するほか、新たに、静岡県立農林環境専門職大学と連携して、農林業分野をテーマにしたサイエンスカフェを実施します。

② 地元企業等との連携

◆ 各催しにおける連携、協力

・秋の企画展を中心に、地元の企業等と連携してワークショップなどの催しを展開します。

◆ 「やらまいかテクノロジーコーナー」の設置と地元企業の技術の発信

・浜松のものづくり技術を紹介する「やらまいかテクノロジーコーナー」を設置します。

◆ 地元企業・団体を対象にサポーター会員を募り、科学館事業の充実を図ります。

③ 全国のミュージアムや研究機関等との連携

◆ 全国の科学館等との連携、協力

・代表企業が運営する科学館や、その他全国のミュージアムと連携し、コンテンツの開発や共有を図ります。

◆ 研究機関等との連携

・科学に関連した研究機関との連携し、専門性の高い知見に来館者が触れる機会を創出します。

④ 他のイベントとの連携による賑わい創出

◆ サイエンスパークでのイベント等の開催や、中心市街地のイベントとの連携

・屋外を活用したイベント等を行い、賑わいを生み出します。

(9) ボランティア活動支援

浜松科学館の運営パートナーとして、市民ボランティアの活動を支援します。前年度からの継続希望者に加えて、新たに一般ボランティア（大人）とジュニアボランティア（中学生・高校生）を募集します。

① ボランティア活動支援の方針

ボランティアが来館者の学びをサポートすることを通じて、地域社会に貢献できる場を提供します。ボランティアの主体性を尊重し、さまざまな活動機会をコーディネートします。工作、読み聞かせ、樹木管理等のさまざまな分野のスキルやモチベーションを活かせる場を共に作り上げ、幅広い市民の参加を目指します。

② ボランティア活動の場の提供

来館者とのコミュニケーションや展示解説、ワークショップの運営などの活動の場づくりに努めます。

③ ボランティアの募集

市の広報誌および科学館ウェブサイトへの募集記事の掲出等によって募集の告知を行います。新規の応募者に対しては面談や基礎研修を実施します。（2023年度の日程・・・4月・5月 募集、6月 研修、7月 活動開始）

(10) 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション

主に自然観察園をフィールドとし、そこで観察できる生物や科学的な事象に関する調査・研究を行い、オンライン上（note）で紹介していきます。身近な自然に気付く機会や、それをより深く学ぶためのヒントを提供することが目的です。得られた標本やデータは、展示やミニガイドブックの形で公開します。

また、当館が展開するサイエンスショーやアクティブ展示解説などの無形のコンテンツを広く共有するために、ドキュメンテーションを進めます。

(11) パブリックリレーションズ

利用者の視点に立って戦略的な広報に取り組み、科学館と利用者とのより良い関係を継続的に構築するよう努めます。内製化している紙媒体やウェブ媒体のさらなる充実を図り、情報的確に利用者や市民に届け、集客につながるリブランディングを進めていきます。あわせて、科学館への親しみが持てるよう、様々なメディア媒体を通してスタッフそれぞれの持つ長を伝える発信を行います。また、新規来館者の獲得とリピーターの定着の良好なバランスを維持させるべく、メディアリレーションにも注力し、利用者が科学館の情報に接する機会を増やします。浜松市天文台との「星空案内」の共同制作を引き続き行うほか、春の企画展との連動企画として、地域のさまざまな場所を職員が訪れ、電子顕微鏡での観察や考察を行う様子を公式 note で連載するなど、地域との連携拡大を図ります。

◆ 紙媒体の活用

事項	内容
ニューズレター「COMPASS」	科学館の事業の全体的な広報を行う。市内及び周辺市町の小学校等へ配布する。（年5回）
星空案内	浜松市天文台と共同発行し、市内の各所で配布する。（毎月）

リーフレット	施設案内のためのリーフレットを制作し、来館者を中心に配布する。 (不定期)
ポスター、フライヤー	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。
企画展等の図録	一部企画展、特別展等に関して図録にまとめ、配布または販売します。
紀要	科学館独自の事業等をまとめ配布します。

◆ ウェブ媒体の活用

事項	内容
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便の向上を図る。
公式 SNS アカウント	Twitter、Facebook、Instagram、YouTube、note の公式アカウントを通じて情報を発信する。
公式アプリ	公式アプリ「コンパス」を用いて、アプリの利用者にお知らせを発信する

◆ 行政の媒体の活用

事項	内容
浜松市広報紙	浜松市の広報紙への記事掲載のために、遅滞なく科学館の最新情報を市へ提供する。
浜松市教育委員会「ミライム」	浜松市教育委員会のイントラネット「ミライム」を活用し、小中学校の先生向けに情報発信を行う。

◆ メディアリレーション

事項	内容
メディア連携	指定管理者の構成企業である SBS グループと連携した情報発信や広告掲出を行う。
パブリシティ	各メディアに対して科学館の最新情報を配信し、取材の働きかけを行い、メディア露出を増やす。

(12) 利用者調査とその活用

来館者に直接声を掛け、質問票（用紙・タブレット）を使用した利用者調査を実施します。回答は四半期ごとに集計し、分析をして今後の事業運営等の参考とします。

◆ 利用者調査結果の分析と運営方針

① 地域との連携

来館者の 6 ～ 7 割が浜松市民で、県内を含めれば 8 割を超えています。令和 5 年度は科学館が積極的に地域と関わることによって、更に市民から愛される科学館運営を目指します。具体的には、地域の特色を生かした企画展・特別展の開催や地元事業者が参加するマルシェの開催、ボランティアの活動支援等を行います。また、地元企業、大

学、研究団体など市内関係機関との連携事業を充実させ、地域とのつながりを深めています。

② リピーターの重視

前回の来館が1年前以前の利用者が約半数を占めることから、1年未満のリピーター層の取り込みを重視します。方策として、内製化された企画を切れ目なく展開し、年間を通じて集客を平準化させ、利用者の体験の質を高めてまいります。具体的には、生解説プラネタリウムのテーマの更新頻度を高めること、交流や体験を重視したコンテンツを拡充させること、特別展や企画展を年4回開催すること、約2週間ごとのミニワークショップの内容の入れ替え等を行います。

③ 親子向けサービスの充実

来館者の約7割が親子層であることから、親子向けサービスの更なる充実を図ります。具体的な事業として、「さがしてためてみらいーら」（館内の展示を親子で楽しむワークブック）の活用や、親子向け参加型学習、キッズプラネタリウムの内容のリニューアル等を実施します。

④ 中高生層の利用拡大

中学生・高校生は来館者の1割未満であることを踏まえ、その利用の拡大と定着を図ります。主な事業として、浜松市及び近隣の学生による出展を主とした秋の企画展「科学の学園祭」を開催し、中高生層の交流の場を提供します。

(13) 常設展示更新事業

2024年、2026年に行われる展示物の一部変更に向けて、事業化し実施します。館内でプロジェクトチームを結成し、チーム横断的に取り組みます。

また、ボランティアや運営委員、市民など外部から広くヒアリングを行い、多方面からの意見を取り入れ、市民に愛される展示物を提供します。

◆年間予定

月	内容
5月	展示更新基本計画の作成、提出
12月	第1期展示基本設計書の作成、提出 実施設計書の作成、提出

◆事業スキーム

名称	浜松科学館常設展示更新事業（仮称）
事業期間	2024年度（第1期） 2026年度（第2期）
事業予算	第1期 48,999,500円 第2期 50,000,500円（いずれも消費税込金額） 協定書第31条第4項及び第5項の規定に基づき、業務完了検査後、展示更新に関する指定管理料として浜松市が指定管理者に支払う。

事業スキーム	<p>1 事業形態</p> <p>DBO 協定書に基づく指定管理業務の期間内事業として実施</p> <p>2 目的</p> <p>「各科学分野の進展や最新の科学的知見、展示協力企業の持つ科学技術の状況を鑑み、指定管理期間を通じて常設展示数の1割程度（企業協力展示を除く）を目安に計画的に更新していくものとする。」（運營業務に関する要求水準書 40 頁 抜粋）</p>
--------	---

◆業務スケジュール

年度	2022			2023			2024			2025			2026																	
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
報告・審議決定				▲更新計画中間確認（浜松市） ◎更新計画最終確認（運営委員会）						▲実施設計最終確認（浜松市）												▲実施設計最終確認（浜松市）								
更新計画	←	→		更新計画 = ・展示ストーリー更新の骨子完成 ・モニタリングの確定(現状維持対象、改良対象、撤去対象) ・新規作成アイテムの目的(ねらい)確定																										
基本設計				←												→														
基本設計				基本設計 = ・改良対象、新規作成アイテムの具体的内容の確定 (予算計画が確定できる程度の精度)																										
実施設計				←												→														
実施設計				実施設計 = ・品質、工期、予算の整合が取れた製作図																										
実証実験							←												→											
実証実験				実証実験 = ・目的への再現性の確認																										
工場製作							←												→											
工場製作																														
現場施工							←												→											
現場施工																														
テストランニング							←												→											
テストランニング																														
引き渡し検査							←												→											
引き渡し検査																														

3 経営管理計画

(1) 開館日及び開館時間

2023 年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。

◆ 開館日数

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日のうち 314 日

◆ 休館日数

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日のうち 52 日

休館区分	該当日		休館日数
月曜日・休日の翌日	4 月 10 日、17 日	5 月 8 日、15 日、22 日、29 日	38 日
	6 月 5 日、12 日、19 日、26 日	7 月 3 日、10 日、18 日	
	9 月 4 日、11 日、25 日	10 月 2 日、10 日、16 日、23 日、30 日	
	11 月 6 日、13 日、20 日、27 日	12 月 4 日、11 日、18 日	
	1 月 9 日、15 日、22 日、29 日	2 月 5 日、13 日、19 日、26 日	
	3 月 4 日、11 日		
機器メンテナンス	4 月 18 日、19 日、20 日、21 日 9 月 26 日、27 日、28 日、29 日		8 日
年末年始	12 月 29 日、30 日、31 日、1 月 1 日、2 日、3 日		6 日

◆ 開館時間

開館時間については、平常時を 9:30～17:00、7 月 20 日から 8 月 31 日は 9:30～18:00 とします。ただし、特別な催しを行う際には、開館時間を延長する場合があります。

また、毎月 1 回 第 2 金曜日に「みらいーら 夜の科学館」を実施し、大人・中人を対象にじっくりと展示やプラネタリウムを楽しむことができる特別メニューを実施します。

(2) 利用料金

① 利用料金

浜松科学館条例（昭和 61 年浜松市条例第 30 号）に基づき、利用料金を以下の通りに設定します（金額には消費税及び地方消費税を含む）。昨年度より現金での收受以外に、キャッシュレス決済を導入しました。

区分	常設展入場料			常設展入場料+プラネタリウム 1 回分観覧料 (大型映像 1 回分観覧料)			
	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	
通常料金	600 円	300 円	無料	1,100 円	550 円	無料	
団体料金	浜松市 湖西市	420 円	210 円	無料	770 円	380 円	無料
	その他地域	540 円	270 円	無料	990 円	490 円	無料

※70 歳以上の方は入場料および観覧料が無料となります。

※2 番組目の観覧料は、大人 200 円、中人 100 円が追加されます。

②その他利用料金

◆ 特別展

開催規模や内容に応じて市と協議の上、適切に設定します。

◆ その他の料金

教室などの催しにおいて、材料費や資料費等の実費相当額を受益者負担分として徴収します。

◆ 年間パスポート

令和4年3月1日からプラネタリウムがリニューアルオープンしたことを機に、年間パスポートの区分及び料金体系を変更しました。今年度も引き続き、年間パスポートは常設展入場に限定して発行をします。

(金額には消費税及び地方消費税を含む)

区分	常設展入場料		
	大人	中人(高校生)	小人(中学生以下)
料金(税込)	1,500円	750円	

(3) 年間目標

浜松科学館の健全でバランスの取れた財務運営を進めるために、利用料金等の適切な受益者負担を前提として収支計画を作成し目標を定めます。※詳細は(9)収支計画参照。

① 目標利用者数

有料ゾーンへの入館者となる常設展示利用者数については、年間17万人を目標とします。

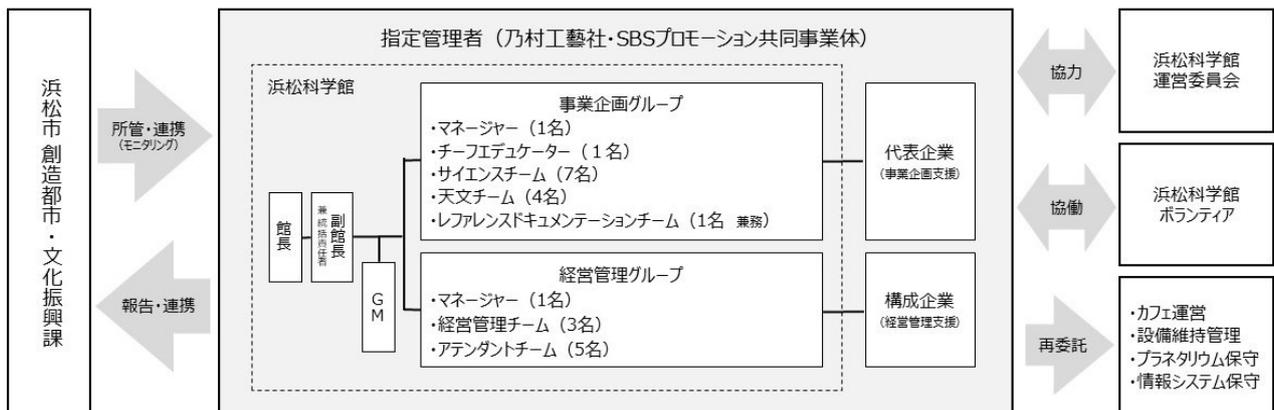
② 利用料金収入

入館料・観覧料及びワークショップ等参加費による利用料金収入は6,431万円を目標とします。

(4) 管理運営体制

① 運営組織

科学館事業に必要な組織体制を構築し、必要な人員を確保します。



◆ 浜松市との緊密な連携

指定管理者制度の枠組みの中で浜松科学館の理念を推進していくために、浜松市との緊密な連絡・報告・協議体制を構築した上で、主体的な事業運営を行います。月次報告会で館長から浜松市市民部創造都市・文化振興課長へ管理運営状況を報告し、統括責任者以下の各責任者も出席して情報共有や課題解決にあたります。

◆ 共同事業体構成企業のバックアップ

共同事業体構成員は、連帯して指定管理業務に責任を負うとともに、必要な経営資源（人材・業務インフラ・資金・情報）を供給し、各社の得意分野を活かして運営をバックアップします。

◆ 全国の科学館との人的交流と事業連携

共同事業体の代表企業が運営する科学館をはじめ、全国の科学館との人的交流や事業面の連携を図る環境をつくり、運営ノウハウの共有や、スタッフ個々人の専門能力の向上を図ります。

④ 職務分掌

館長、副館長、GMのもとで、経営管理グループ、事業企画グループが、それぞれの業務を推進します。

役 職		職務分掌	
館長 1名		館を代表して渉外・外交を統括	
副館長 兼 統括責任者 1名（防火管理者兼務）		館全体の管理運営を総括、浜松市との連絡調整	
GM 1名		県内の関係機関との連携、事業開発	
経営管理 グループ (9名)	マネージャー 1名	経営管理部門の実務責任者 防災管理、業務委託管理、施設維持管理	
	経営管理チーム (3名)	リーダー 1名	総務、人事、経理、問合せ対応等のバックヤード業務
		常勤 2名	
	アテンダントチーム (5名)	リーダー 1名	総合案内、チケット販売、団体予約管理・受付対応 プラネタリウムドーム内案内・誘導 ミュージアムショップ運営（自主事業兼務）
常勤 4名			
事業企画 グループ (13名)	マネージャー 1名	事業企画部門の実務責任者	
	チーフエドューケーター 1名		教育普及活動全般の統括、展示更新 PT リーダー
	天文チーム (4名)	リーダー 1名	宇宙・天文に係わる教育普及活動（学芸業務） 投映業務・番組制作・新規投映の企画 天文情報の収集・発信 設備機器の稼働・保守
		サブリーダー 1名	
		常勤 2名	
	サイエンスチーム (7名)	リーダー 1名	物理・生物・地学・工学分野等の教育普及活動（学芸業務） 展示企画・特別展等制作 研究活動、情報収集・発信 ボランティアとの連携による活動支援 常設展示の稼働・保守・補修
常勤 6名			
RD チーム (1名※兼務)	リーダー 1名（経営管理 チーム・リーダーが兼務）	科学館活動のレファレンス・文書資料管理（ドキュメンテーション） ボランティア活動支援のコーディネート	

③ 浜松科学館運営委員会

科学館事業への助言および協力を得ることを目的とし、学識経験者等で構成する浜松科学館運営委員会を組成し、共同事業体が事務局を担います。

○委員名簿

役職	氏名(敬称略)	所属
委員長	上野 征洋	静岡文化芸術大学 名誉教授
委員	遊橋 裕泰	静岡大学情報学部 教授 (行動情報学科長)
委員	村井 良子	(有)プランニング・ラボ代表 (ミュージアム・プランナー)
委員	嶋野 聡	浜松市 市民部 文化振興担当部長
委員	名波 佳紀	浜松商工会議所 産業振興部 工業振興課長

(5) 受付案内

① アテンダント業務の方針

感染対策に努めつつ適切な利用案内を行い、顧客満足度を高めるよう努めます。業務マニュアルに基づき、スタッフに対して定期的に研修を行うことで、サービス水準の維持、向上を図ります。

② アテンダント業務

◆ 1階インフォメーションにおける受付・案内業務

業務	内容
来館者の誘導、案内、受付業務	<ul style="list-style-type: none"> 来館者の誘導、案内 (車椅子・ベビーカー等貸出、拾得物・遺失物への対応を含む) 団体の誘導、案内 (予約受付、下見対応等含む) 施設、利用方法、当日のプログラム、スケジュール等の総合案内・各種問合せ対応
発券業務	<ul style="list-style-type: none"> 常設展、プラネタリウム、年間パスポート等の利用料金の徴収 (減免手続や領収書発行等含む) 上記に伴うチケットの発行、プラネタリウムの残席数の管理
ミュージアムショップでの販売、接客対応、補充、商品管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップ利用者への商品販売・接客対応 商品の補充、在庫の管理 (半年に1度棚卸実施) ガチャの商品補充、本体の管理 (故障対応等)
科学学習情報システム端末貸出業務	<ul style="list-style-type: none"> 科学学習情報システムの貸出端末利用者への対応 端末の貸出料金の徴収
情報提供業務	<ul style="list-style-type: none"> 周辺及び市内の文化施設や関係機関に関する情報提供等

◆ プラネタリウムにおける誘導・案内業務

科学館3階のプラネタリウムドームで、プラネタリウム観覧者の誘導、案内等を行います。

業務	内容
チケット確認	<ul style="list-style-type: none"> プラネタリウム観覧券の確認および感染対策の実施
ドーム管理、誘導案内	<ul style="list-style-type: none"> 座席への誘導および出口への誘導、非常時の際の避難誘導

(6) 施設貸出

① 施設貸出業務の方針

浜松市スポーツ・文化施設予約システム（まつぼっくり）による施設の利用申請を受け付け、利用許可を行い、利用料金を徴収します。利用日の6カ月前（教育関係団体は7カ月前）から申請の受付を行います。

感染対策を講じる一方、指定管理者によるイベント実施期間等を除く時期に施設の有効活用を図るため、施設の特性や利用方法等についての周知を図り、市民の学習、交流活動等での利用に対応します。

② 貸室料金等

◆ 利用可能時間

9:30 から 21:30 までを貸出時間とします。（準備、片付け、原状復帰の時間も含む）

◆ 対象諸室と利用料金

浜松科学館条例に基づき、利用料金を以下の通りに設定します。（金額には消費税及び地方消費税を含む）

対象諸室	利用区分		9:30～10:00 及び 21:00～21:30	10:00～21:00 1時間につき
ホール	教育関係団体	入場料徴収なし	470	940
		入場料徴収あり	940	1,880
	その他	入場料徴収なし	940	1,880
		入場料徴収あり	1,880	3,770
セミナールーム A	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320
		入場料徴収あり	320	640
	その他	入場料徴収なし	320	640
		入場料徴収あり	640	1,290
セミナールーム B	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320
		入場料徴収あり	320	640
	その他	入場料徴収なし	320	640
		入場料徴収あり	640	1,290

◆ 利用者への対応について

椅子や机等の備品貸出の他、音響、照明、冷暖房装置等の備品は、浜松科学館条例施行規則（平成18年浜松市規則第120号）で定められた金額での貸し出しを行います。

(7) 施設維持管理

① 施設維持管理業務の方針

利用者にとって快適かつ機能的な環境を継続的に提供することを目的に、感染対策をはじめとする予防保全を基本方針として、中長期的な視点からライフサイクルコストの低減にも努めます。公共施設、社会教育施設としての施設特性を踏まえ、その目的の達成を施設維持管理面で支えるため、次の基本的な考え方に基づいて業務を行います。

- 来館者にとっての安心・安全・快適な環境を実現します。
- 当施設の建物、設備、展示装置、その他装置、物品等を適切に管理し、機能及び性能を保ちます。

- 「浜松市役所温暖化対策マネジメントマニュアル」（平成 22 年 4 月制定）に従い、省エネルギー、省資源に努め、環境負荷の低減に配慮した管理を行います。

② 施設維持管理業務

安全、安心で快適な施設環境を保つため、設備管理業務、清掃業務、警備業務を行います。

設備管理業務では専任の作業員が常駐し、空調等の設備機器の運転、保守及び監視を行います。また、清掃業務については、建物の保全並びに衛生、美観の保持のため、開館中は作業責任者が常駐し利用状況に合わせて作業を行い、夜間等閉館時及び休館日には清掃員による集中清掃を行います。感染対策として、医療施設の除菌消毒清掃を実施している事業者の協力を得つつ、ウイルス除去のための清掃業務を適切に実施します。

<設備維持管理業務内容>

* 施設設備仕様に合わせて適宜、業務内容を追加します。

区分		業務内容
日常管理	設備運転管理業務	・設備運転管理
	日常清掃業務	・日常清掃（感染対策を含む）
	警備業務	・機械警備
定期保守	設備保守点検業務	① 特定建築物定期調査報告（年 1 回） ② 建築設備定期検査報告（年 1 回） ③ 防火設備定期点検報告（年 1 回） ④ 昇降機設備保守点検（法定点検及び定期点検：毎月） ⑤ 自動ドア保守点検（年 4 回） ⑥ 空調設備保守点検（年 2 回） ⑦ フロン漏洩点検（年 4 回） ⑧ フィルター清掃（年 2 回） ⑨ 空調自動制御機器保守点検（年 2 回） ⑩ 二重吸収式冷凍機保守点検（年 4 回） ⑪ 消防設備保守点検業務（法定点検及び定期点検） ⑫ 自家用電気工作物保守点検業務（法定点検及び定期点検：毎月） ⑬ 非常用発電機保守点検業務（年 1 回） ⑭ 監視カメラシステム及び放送設備の保守点検業務（年 1 回） ⑮ 空気環境測定業務（年 6 回） ⑯ 受水槽等清掃（年 3 回） ⑰ 簡易専用水道検査及び水質検査（各年 1 回以上） ⑱ レジオネラ菌検査（年 2 回） ⑲ 害虫駆除・鼠防除管理業務（毎月） ⑳ 防火対象物定期点検報告（年 1 回）
	ホール設備保守点検業務	① 舞台照明保守点検業務（年 1 回） ② 音響設備保守点検業務（年 1 回）
	定期清掃業務	① 定期清掃（年 6 回以上） ② ガラス清掃（年 2 回以上） ③ 屋外緑地の植栽管理（年 2 回以上） ④ 紙屑危険物搬出業務（週 2 回以上）

③ プラネタリウム機器の保守管理業務

プラネタリウム機器を常に正常な状態に保ち、最適な環境の下で安定的に投映を行うことができるようにするために、日常点検を行うとともに、故障やトラブルを未然に防ぐための定期保守点検を行います。また、不具合が生じた場合

は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<定期保守点検の実施内容> * 機器仕様及び機器コンディションに合わせて適宜、業務内容を変更します。

業務内容	頻度
総合点検（光学式・デジタル式プラネタリウム、プロジェクター等）	2回/年

④ 展示保守管理業務

映像機器や展示装置等の展示を常に正常な状態に保ち、故障や破損を未然に防ぐことで、来館者が安全に利用できるように、日常的な点検を行うとともに、定期的な保守点検を行います。また、映像機器や情報機器には耐用年数がありますので、機器の特性に応じて機器更新を行います。不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<定期保守点検の実施内容> * 展示仕様及び機器コンディションに合わせて適宜、業務内容を変更します。

	業務内容	頻度
1	映像機器点検作業（映像・音響装置、プロジェクター、タブレット PC 等調整・動作点検）	適時
2	展示装置点検作業（調整・動作点検）	適時
3	造形物点検作業（目視点検）	適時
4	屋外遊具（パワーアスレチックハウス）点検作業（調整・動作点検）	1回/年
5	霧のステージ点検作業（調整・動作点検）	1回/年

(8) 安全管理

① 安全対策の基本的な考え方

来館者の安全を確保するために、防災総合対策マニュアルを策定し、施設内での事故・災害・盗難・不正・破壊等を未然に防止します。日常的な施設の施錠開閉及び入退室者の管理を行うとともに、来館者に対する細やかな心配りにより安全を確保し、危険な事態や火災・盗難等の早期発見と拡大防止に努め、災害や事故に強い施設づくりに取り組みます。

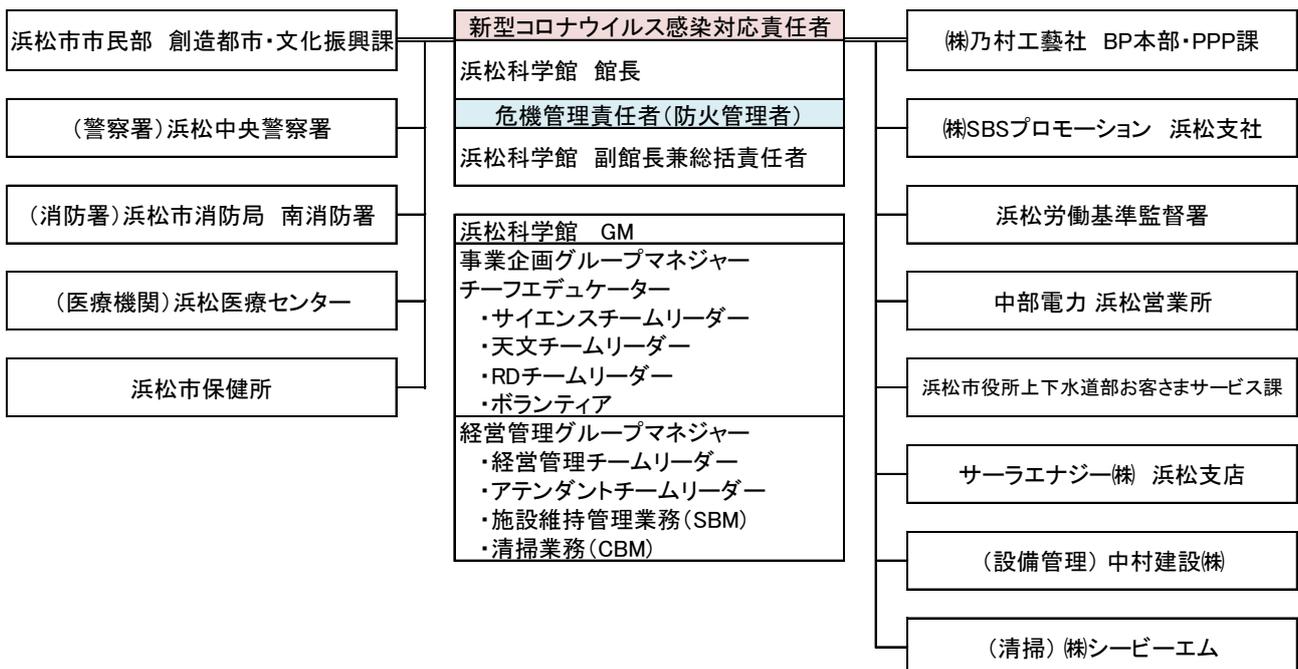
また、防災訓練（避難誘導訓練：年2回）と防災研修（年1回）を実施し、非常時に的確な行動と体制を築くことができるよう努めます。

② 警備業務

夜間及び休館日等の職員不在時は、自動火災報知機と連動した機械警備業務を実施することで防犯及び防火体制を整えます。

③ 緊急時の対応体制

災害等の発生時には危機管理責任者を中心に連絡体制を整え、浜松市の関連部署と連携を密にした指揮命令系統をつくり、対策にあたります。



④ 防災対策

災害に備えて防災対策を図るとともに、本施設が被災した場合には、直ちに補修等の措置を講じ、施設の機能維持に努めます。

- ・防火管理者の選定と「消防計画」の策定
- ・自衛消防隊の編成（・隊長、副隊長、地区隊長、初期消火、通報連絡、避難誘導係、応急救護等）
- ・災害時の参集基準の設定（地震の震度や風水害の警報レベルに応じた避難、休館等の基準の設定）
- ・「危機管理マニュアル」の作成

- ・「緊急対応ポケットメモ」の作成とスタッフ全員の携行
（緊急時の行動、自衛消防隊、緊急連絡網、関係連絡先一覧、緊急退避、閉館と参集基準、近隣防災マップ、緊急時アナウンス例（多言語）、館内フロア頃の避難誘導動線と消火器、消火設備配置図 等）
- ・緊急事態に備えた教育・訓練の実施
 - － 防災総合避難訓練（年 2 回）
 - － 設備・機器の取扱い教育（消火器、AED 取扱い研修を含む）
- ・防災事項や事故情報、他館で発生した事故事例等の防災情報の共有化と、職員・スタッフ各員の予防意識の喚起
 - － 防災研修（年 1 回）
- ・文化財の保護・保全に係る消防署との連携
 - － 災害発生に備えた笹ヶ瀬隕石の取扱い方法の確認及び館内消防設備等の現地調査への協力（浜松市消防局・南消防署）

(9) 収支計画

I 収入

(単位：円)

区 分	内 訳	金 額
A 収入合計		210,820,000
1 指定管理業務委託料	指定管理料 年額140,710,900円(税込)	140,710,000
2 利用料金		64,310,000
入場料・観覧料等	常設展示・プラネタリウム等観覧料	60,109,000
特別展入場料	春、夏の特別展等入場料・企画展ワークショップ参加費	2,000,000
施設貸出使用料	ホール、セミナールーム貸室料	300,000
その他収入 (受益者負担金)	情報端末貸出料	1,000
	みらいーらカード発行料	100,000
	参加費・材料費	1,800,000
3 補助金、協賛金等		5,800,000

II 支出

区 分	内 訳	金 額
B 支出合計		210,820,000
1 事業運営業務費		21,650,000
常設展示運営費	保守点検、管理経費等	1,980,000
プラネタリウム運営費	番組制作・借上料、保守点検、管理経費等	10,170,000
特別展・企画展運営費	企画料、製作費等	5,700,000
教育普及事業費	展示消耗品、ミニワーク、サイエンスショー材料費等	3,800,000
2 広報業務費		5,300,000
広報費、印刷費	広告媒体費、宣材印刷費等	5,300,000
3 施設運営業務費		142,091,000
管理運営人件費	常勤・臨時職員給与等	131,604,000
運営事務費	旅費、消耗品、事務機器等借上料、保険料等	10,487,000
4 施設維持管理業務費		37,290,000
維持管理業務委託費	清掃、設備管理、保守点検等委託料	34,628,000
その他施設管理費	安全管理、修繕料等	2,662,000
5 公租公課		10,000
租税公課費	消費税、法人事業税等	10,000
6 一般管理費		4,479,000
一般管理費	バックオフィス事務経費等	4,479,000
収支：A-B		0

金額は消費税、地方消費税を含む。

4 自主事業計画

(1) 必須の自主事業

① ミュージアムショップ運営

◆ 事業方針

浜松科学館のオリジナルショップとして、事業活動と一体的に企画・運営し、来館者の科学を楽しむ心と挑戦への意欲を刺激するとともに、来館者が帰宅後にさらに学びを深めることを支援します。

また地域のアンテナショップとして、地元浜松の企業の技術や商品紹介、作家の商品販売を行い、来館者以外の方も浜松の技術に触れあえる場所とします。

◆ 概要

- ・ 営業日数：開館日と同じ
- ・ 営業時間：11：00～17：00

(7月20日から8月31日は18：00まで。イベント等での開館延長時にはその時間に合わせて営業)

◆ 販売物

事業と連動し、商品点数の多種多様化と増大を図りながら、来館者の能動的な学びを支援するグッズを販売し、オリジナル商品も開発します。

- 科学館のテーマと連動したグッズ及び地元企業関連製品の販売
 - ・ 常設展示の5つのテーマ（光、力、音、自然、宇宙）やプラネタリウムに関連した教材、実験・工作材料、書籍、文具などのグッズ
 - ・ 企業展示コーナーに出展する地元企業の技術に触れられる製品
 - ・ 実験や工作のキットや道具、材料 等
- オリジナル商品の開発と販売（下記のような商品を5種類以上品揃え）
 - ・ 地元企業の技術や製品を用いたオリジナル商品（注染手ぬぐい、マグネットカードケース、ブックマーク等）
 - ・ オリジナルデザインのおみやげ（タオルハンカチ、クリアファイル、キーホルダー 等）
 - ・ 科学館キャラクターグッズの商品販売（コンパスくん、まるだしくん、ブツソラちゃん）
- 特別展及び企画展やプラネタリウムの番組と連動した商品の販売
- プリントシール機によるオリジナルシールの販売
- 大河ドラマ館オープンに連動した浜松に関する商品の販売（家康など将軍グッズ、ガチャガチャ等）

◆ 収支計画

※仕入原価に人件費は含まない

(単位：千円)

区分		令和5年度（2023年度）浜松科学館ミュージアムショップ月別収支見込												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
税込金額	売上高	1,210	1,870	858	2,662	3,740	1,210	605	605	605	605	550	1,980	16,500
	仕入原価	673	1,040	477	1,481	2,081	673	337	337	337	337	306	1,102	9,180
	粗利益	537	830	381	1,181	1,659	537	268	268	268	268	244	878	7,320

② カフェ運営

◆ 事業方針

来館者の利便性に配慮した飲食サービスを提供するとともに、サイエンスライブラリー & カフェとして、図書の閲覧、絵本の読み聞かせなどにも利用できるようにします。カフェを目的として訪れる人も増えるように、魅力ある店づくりを行います。

◆ 概要

浜松市内の飲食店等と連携し、浜松の旬の食材を活かした料理や手作りスイーツ、ドリンクなどを提供します。

「食」に関するイベントも実施し、「食育」や「地産地消」の推進に寄与します。また、感染対策に配慮した運営に努めます。（状況に応じた席数の調整、飛沫防止パネルの設置等）

- ・営業日：土曜・日曜日・祝日、長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）を中心に周年営業を目指します。
- ・営業時間：11:00～16:30（予定） ※「夜の科学館」開催時には夜間営業も実施します。

◆ メニュー

公募等により決定した営業協力者と協議し、メニューを決定します。

③ 自動販売機の設置管理

清涼飲料水等の販売を目的に自動販売機を設置します。設置台数は6台とし、下記の場所に設置し併せて容器回収ボックスを設けて適切にリサイクル処分を行います。

設置場所	台数	備考
サイエンスパーク内キッチンカーエリア	1台	清涼飲料水等
1階通用口付近	2台	〃
2階階段	2台	〃
2階キッズサイエンスランド	1台	乳飲料等

（2） 任意の自主事業

① キッチンカーのフードサービス

令和5年度も、感染対策のため周年での誘致は見合わせます。

② 賑わい創出のマルシェ

科学館周辺地域の賑わい創出と地域農産物等のPRを目的に、生産者や事業者が対面で商品を紹介し販売する「みらいーらマルシェ」を開催します。

- ・実施予定時期：5月、7月、10月、12月(予定)
- ・実施場所：サイエンスパーク、エントランスホール 他